

「種をまく人」

校長 益満 等之

6月上旬

校内を見回っていて、誰もいない美術室へ行った時のことです。ちぎった色とりどりの色紙が幾重にも張り付けられた、A4 用紙よりも少し大きいくらいの紙が何枚もあるのを見つけました。「何だろう？ 美術の時間に取り組んでいる物だろうけど・・・？」

6月下旬

ちぎった色とりどりの色紙が張り付けられた A4 用紙よりも少し大きいくらいの紙の枚数が増え、さらに、色紙の量が増え、どんどんカラフルになっていることに気づきました。「ひょっとして、この紙をピースのようにつなげると、何かの絵になるのか・・・？」

7月上旬

早朝、美術室の床にそれらの紙がきれいに並べてあるのを見つけたので、台の上に上がって見下ろしてみました。大きな太陽からの光。奥行の深さ。中央の右側に人が立っている様子・・・。「やっぱり絵だ！」

7月13日（月） アートの日 午前

体育館で一枚一枚のピースが、生徒たちの手によってつなげられていきます。全部で120枚。すべてがつながって出来上がった作品は、フィンセント・ファン・ゴッホの作品で「種をまく人」。

縦3メートル、横5.4メートルの巨大なモザイクアートで再現した「種をまく人」が完成し、キャットウォークから下げられました。

「すごい!」「大きい」「私が貼ったピースはあそこ!」「太陽! 人! 影!」・・・生徒たちからも感嘆の感想が上がりました。



7月13日（月） アートの日 午後

PMF（パシフィック・ミュージックフェスティバル）で札幌を訪れている、海外のオーケストラなどで活躍している若き音楽家たちの演奏を聴きました。モーツァルトのアイネ・クライネ・ナハトムジークをはじめ、なじみのある「となりのトトロメドレー」など、スピーカーから聞こえてくる音とは違う「本物」に触れることができました。ホルンやバイオリン・チェロといった楽器とピアノによる、

「豊明高等支援学校 校歌」の演奏では、生徒の歌声と共演することができ、これも、またとない体験となり感激しました。

「種をまく人」の巨大モザイクアートの前で聴く、弦楽四重奏、ホルン四重奏などは、ゴッホと同じ時代を生きた作曲家たちが見た風景を連想させるようで、生徒と教職員で格別な時間を過ごすことができました。

さて、本校の生徒は、日々の学校生活の中で「種」をまいています。自分の成長の「種」です。今すぐ成果が出るわけではありません。しかし、種をまくという、今の努力がなければ、芽もでなければ、豊かな人生のための収穫もありません。

ゴッホが描いた「種をまく人」は、未来を信じて、今この時の努力を惜しまない姿を感じる作品であり、豊明の生徒たちの姿と重なってくるのです。私にはそう感じるのです。

開校50年目の節目に「アートの日」を実施できたことに喜びを感じています。そして、生徒たちにとって、自分の人生への種をまく豊明高等支援学校での1日1日を大切にしたいと思います。生徒一人ひとりが、自分のためにまいた種が、やがて芽吹き、自分を大きく成長させ、その先に「社会のウェルビーイング」が実現できることを願ってやみません。